

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年9月13日

氏名 (フリガナ)	山中隼(ヤマナカシュン)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2018年8月13日(月)～8月18日(土)
大学名	慶應義塾大学
学年	5年

私は5年の春学期に大学のプログラムで海外の大学で臨床留学できる予定があり、その準備および英語能力の向上を目的に今回のプログラムに応募いたしました。もともと自分はあまり英語が得意ではなく、海外経験も少ないという中で英語力に不安がありやっつけいけるのか心配でしたが、終わってみると5日間という短い時間の中でとても充実したものだと思いました。

今回のプログラムに参加が決まって HTIC の先生方から資料やスケジュールが送られてきた時には、朝8時から夜9時まで予定が密に組まれておりとても驚きました。実際午前には英語倫理と history taking の授業、午後は病院の見学、夕方以降はハワイ大学の学生を相手に history taking &先生たちに対する presentation をひたすら行う、という予定を毎日こなしていくという日程となっておりました。5日間という短い時間でしたが、人生の中で最も濃密で、たくさん英語について考えた時間になったと思います。

今回のプログラムの中で最も印象に残ったことは、やはり毎日繰り返し行った history taking & presentation だと思います。最初はとりあえずやってみようということで何もわからない状態から始めてとてもチャレンジングなことでしたが、慣れていくうちにしっかり流れ通りに流暢に行えるようになってきたことが自分でもわかりました。また先生方から直接フィードバックをいただけるので、とても参考になるものでした。自分の大学でポリクリを行っていく時に日本語で行う際にも役に立つ技術が身についたと思います。

また今回のプログラムで感じたことは自分の英語力だけでなく医学の知識も足りていないということでした。ハワイ大学の学生たちは自分たちと同じ世代とは思えないほどの知識量で、鑑別疾患も多く挙げられていました。それだけでなく日本の様々な大学からの学生たちが今回のプログラムに参加していましたが、みなとてもモチベーションが高く優秀な医師になることをしっかり目指しており、そのための医学知識も備わっているという学生が多かったと思います。そんな中で自分の医学の知識量の少なさを実感しました。そんな優秀な友人たちが同じ世代にいるということに刺激を受けて、今後も医学の知識の向上に努めなければいけないと思います。

最後になりましたが、今回のプログラムを支えてくださった HTIC の先生方、東海大学や神戸大学の先生方、スタッフの方々、日米医学医療交流財団の方々に心から感謝しております。誠にありがとうございました。